

<p>学力調査等の状況</p> <p>5月に実施した、東京ベーシックドリル(2年生から6年生を対象に算数で実施)の結果から、四則計算や整数、小数等の問題においては全体的に正答率が高かった。一方で、学年が上がるにつれて、各領域の正答率は徐々に低くなっている。学習内容が抽象化し難度が高まるにつれて理解度に大きな差が生まれ、全体としての正答率が低下したと考えられる。また、6年生を対象とした全国学力・学習状況調査では、国語科で「話すこと・聞くこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容において、正答率が平均値を10%ほど下回る結果となった。特に「適切な敬語の使い方」と「文章を読んで自分の考えをまとめる」問題は全国平均を13~15%も下回っていた。算数ではどの領域も全国平均よりも10%程度正答率が低かった。特に「図形」と「計算のきまり」に関連した問題の正答率が著しく低かった。また、問題形式という観点で見ると、国語も算数も「記述式」の正答率が、50%を下回っており、全国平均と比較しても10%ほど低かった。</p>
--

<p>見えてきた課題</p> <p>国語では「話す・聞く」に関する問題の正答率が低かった。このことから、「他人の話や説明を正しく聞き取り内容を理解する能力」や「自分の思いや考えを言語化し、分かりやすく相手に伝える能力」に課題があると考えられる。算数では「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低いことから、基本的な数の処理や計算については理解しているものの、応用的な問題や複合的な問題において必要な学習内容を正しく選び出し、活用することが苦手であることが推測される。国語の「敬語」の問題や算数の「紙を折り曲げた時にできる形」の問題など、学習を生活に生かすことについても苦手であると考えられる。また、国語、算数ともに記述式の正答率が著しく低かったことから、自分の考えを文章に表す力も課題であると言える。以上のことから、全ての教科において、相手の話をよく聞き、自分の考えや感想をもつこと、伝えたいことを分かりやすく表現する力を付けていく必要があると考えられる。そのためにも、通常の授業だけでなく、モジュールや家庭学習の時間を有効活用して、子供たち一人一人が各学年の内容をしっかりと身に付け、定着させていけるよう支援していきたい。</p>
--

<p>授業をデザインする8つの取組について</p>	
<p>ICT機器の活用</p>	<p>動きのある具体物を大型提示装置等を用いて、児童の学習意欲と高めるとともに、視覚を十分に活用して理解を深める。また、プロジェクターで提示した友達ノートやスプレッドシートなどで児童相互の考えを共有できるようにする。</p>
<p>見通しをもたせる導入</p>	<p>これまでの学習を振り返り、その時間で学習するポイントを明確にする。既習事項が他の教科にも使えることに気付かせ、課題解決の見通しをもたせる。</p>
<p>価値ある対話の共有</p>	<p>各教科の各単元で話し合いの時間を確保し、考えを交流する場を設ける。その時に①話し合う目的やテーマを明確にする②話し合う時間の目安を提示する③自分の考えと比較しながら友達の意見を聞くよう指導する を意識しながら授業実践を行う。</p>

<p>各教科における課題を改善するための指導の重点</p>				
	<p>年度当初に設定した重点</p>	<p>低学年</p>	<p>中学年</p>	<p>高学年</p>
<p>国語科</p>	<p>○全ての学習の基盤となる言語能力を支えるために、語彙を豊かにする指導の改善と充実を図る。 ○話す・聞く・読む・書く活動をバランス良く行う。また文章を的確に理解した上で情報の整理を行い、自分の考えの形成に生かしていくよう指導する。 ○対話を通して自分の考えを広げ深める活動については、ICTの活用を図る。</p>	<p>○ひらがなやカタカナ、漢字の学習の際に、その字が使われる言葉にたくさん触れることで、語彙を豊かにする活動を取り入れる。 ○新出の言葉を丁寧に取り上げて、文章を読んだり話を聞いたりするよう指導する。また、順序立てて話をしたり文章を書いたりするよう指導する。 ○自分の考えをもって、対話をし、他の意見のよさに気付くことができるようにする。</p>	<p>○新出漢字の学習の際に、熟語を考えたり、その意味を調べたりするなど、言語に対する興味をもたせながら語彙を豊かにする活動を取り入れる。 ○大事な言葉に気を付けて、文章を読んだり話を聞いたりするよう指導する。また、自分の考えを書いたり話したりする活動を多く設ける。 ○価値ある交流ができるように、考えたことをまとめた時解決したりする場面を設定する。</p>	<p>○文章問題では、何が問われているのかを理解できるよう、キーワードに着目させ、指導する。 ○複数の資料を整理しながら読み取り、本文から根拠を見つけて、自分の考えを表現できるように指導する。 ○スプレッドシートなどのICTを活用しながら、進んで自分の意見を伝えようとする態度を育てる。また、自分の考えと比較しながら友達の意見を聞くよう指導し、理解を深めさせる。</p>
<p>社会科</p>	<p>○ICT機器を活用して資料を見合うなどの工夫をし、学習理解を深める。 ○資料集や地図、クロムブックを活用し、必要な情報を探したり、選んだりする活動を通して、根拠を基に論理的に表現できるように指導する。 ○ICT機器の活用を図り、対話的な活動を充実させる。</p>	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○写真や絵、実際に見たものから分かることを言葉で伝え合ったり、カードに書いたりする。 ○写真や絵、実際に見たものから知りたことを探したり選んだりして、気付いたことをカード等にまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p>○統計やグラフなどに着目させ、資料から読み取れること、分かることを捉え、自分の身の回りの事象とつなげていけるようにする。 ○資料集や地図を活用し、必要な情報を調べたり、まとめる力を身に付けさせる。 ○対話の活動にICTを取り入れ、学習の理解や、思考を深める。</p>	<p>○地図を活用し、方位や地図記号、標高や位置など地理的な感覚を高める。歴史的事象や地名などが出てくるたびに、地図帳を用いて調べる活動を取り入れる。 ○資料を様々な角度から読み取り、その中から必要な情報を取捨選択する力を高める。また、表現活動を行わせる際には根拠とした資料(教科書や資料集など)をはっきりさせるよう指導をする。</p>
<p>算数科</p>	<p>○問題文で、問われていることは何かを必ず押さえ、問題の内容を的確にとらえることができるように指導する。 ○正しく演算決定させるために、数直線を活用して量関係を把握させるように指導する。 ○今までに学習した内容を生かして考えることができるよう、既習事項の振り返りを行うことから新しい問題や課題を解くように指導する。 ○ICT機器を活用して対話を活性化させ、理解を深めるさせる。 ○生活の中で関係する事柄を取り上げ、学んだことを実生活でも生かせるように指導する。</p>	<p>○クロムブックや、実物投影機を活用して具体的に児童に数量関係を掴ませたり、課題解決のために図や絵を使って考えたりするなど、体験的活動を通して学習内容の理解を深めるようにする。 ○新しい問題を解く前に、それまでの振り返りを行い、既習事項を生かして課題解決を行うことを習慣付ける。 ○学んだことを、実生活と結び付けて生かせるよう、具体的な場面を挙げて指導する。</p>	<p>○問題文をテープ図や線分図で表し、問われていることが何かを理解することができるようにする。 ○既習事項の振り返りを行い、学んだことを生かしたり、基礎・基本の力を伸ばしたりできるように指導する。 ○生活の中で関係する事柄を学習に取り入れ、学んだことを生かせるように指導する。</p>	<p>○図や表等を使って問題文の情報を整理し、内容を的確に捉え、問題を解くことができるよう指導する。 ○既習事項の振り返りを繰り返し行い、基礎・基本の力を伸ばす。また、既習事項を生かして新しい問題等に取り組めるよう指導する。 ○生活の中で関係する事柄を学習に取り入れ、実生活でも生かせるよう指導する。</p>
<p>理科</p>	<p>○ICT機器を有効活用しながら話し合い活動を行い、自他の考えを比較したり関連付けたりするなど、科学的に探究する方法を用いて考えさせるようにする。 ○予想と結果、考察、感想を使い分けて書くよう指導し、根拠を基に自分の考えを表現できるようにする。 ○生活体験や既習事項から根拠をもって自分の考えをもち、主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○理科につながるため、生活科の学習の中で基礎的な科学的な見方・考え方を身に着付けることができるよう、自然の不思議さやその面白さを実感できるようにする。 ○植物などの観察において、起きている現象について絵で正確に描き写したり、起きていることと絵で思ったことを書き分けられるよう指導する。</p>	<p>○実験結果を予想する時間を十分に設ける。日々の生活体験やこれまでに習ったことを基本にして考えを深めさせる。 ○小集団での話し合いを通して、他の考えと比較することにより、自分の考えを深められるようにする。 ○児童が既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想させ、主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>	<p>○日常生活の中から疑問をひきだし、どうしてその現象がおこるのかを自分の経験や既習事項とつなげて予想できるような時間を設ける。どうしてそのように考えたのか根拠をもって説明できるように指導する。 ○予想や考察は全体で共有し、友達の考えから自分の考えを深めていく。 ○実験の結果から考えられることを考察としてまとめられるようにし、感想とは異なる書き方を指導する。</p>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な活動や体験を通して、比較、分類、関連付けをすることで解釈し把握する。試行、予測、工夫する中で新たな活動や行動をすることを通して、自身の生活について考え、気付きの質を高める。 ○ICT機器を活用し、見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫する等の多様な学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な活動や体験をきっかけに物事を捉え、気付きの質を高める。 ○デジタルカメラやパソコンを活用し、活動に必要な情報を得られるよう、低学年のうちからICT機器を活用した学習ができるよう素地を作る。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○導入時の発声やリズム運動を繰り返し行うことで基礎技能の定着を図る。さらに中学校での学習への見通しをもち、表現活動の積み重ねを図る。 ○ICT機器を活用し、思いや意図を共有したり、音楽作りをしたりする活動を行う。 ○我が国や郷土の音楽に親しみ、良さを味わえるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現する際の思考力・判断力・表現力を育て、旋律の特徴を体で表現できるように指導する。 ○日本の音楽に親しみ、我が郷土の音楽や文化に興味をもてるよう音楽あそびを工夫する。 ○ICT機器を活用したリズム作りを行い、友達と共に工夫する楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現する際の思考力・判断力・表現力を育て、旋律の特徴を言語化して表現できるように指導する。 ○日本の音楽に親しみ、我が郷土の音楽や文化に親しみや誇りをもてるよう教材を工夫する。 ○ICT機器を活用した音楽作りを行い、友達との作品の共有を経て創作する楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現する際の思考力・判断力・表現力を育て、旋律の特徴を言語化して表現できるように指導する。 ○世界の音楽に親しみ、様々な文化や楽器に触れ、様々な音楽を知るとともに視野を広げられるよう教材を工夫する。 ○ICT機器を活用した音楽作りを行い、音色・リズム・速度などさまざまな要素を考えて創作を行う機会を与える。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のめあてや製作のポイントを明確に、製作過程のイメージがわくように指導する。 ○題材設定を工夫し、基礎的な能力や創意工夫する能力を養う。 ○作品のよさや面白さを伝え合う活動を取り入れ、児童の造形的な見方、考え方を広げ深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の導入でお話の世界を楽しんだり想像を膨らませる機会をつくる。 ○学年の発達段階に合わせた用具の基本的な技能を、演習や机間指導により定着を図る。 ○毎時のねらいや達成すべき課題をステップに提示する。児童一人一人がめあてをもって、主体的に取り組めるような題材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の導入でICT機器を活用して、必要な情報を収集する機会をつくる。 ○学年の発達段階に合わせた用具の技能を、演習や机間指導により定着を図る。習得した知識・技能を展開で活用、実践できるようにする。 ○毎時のねらいや達成すべき課題を段階的に提示する。児童一人一人がめあてをもって、主体的に取り組めるような発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考の段階でICT機器を有効に活用して必要な情報を収集したり、整理・選択したりする機会をつくる。 ○前学年までに培った知識・技能を活用し、多様な材料や表現方法から自分で選択、決定できるような応用的な題材を取り入れる。 ○毎時のねらいや達成すべき課題を段階的に提示することで、制作の手順や時間配分など、見通しをもって活動できるようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解できるよう、実物を使ったり実習を行ったりして指導する。 ○自分の生活における課題を見つけるために、普段から身近な生活上の話題を提供し、具体的な解決策を見つける方法を考えたり、仮説を実践したりする活動の充実を図る。 ○調理や製作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりすることができるよう、実践的・体験的活動を充実させる。調理活動については、必要に応じてICT機器を活用して、家庭へ実践の協力を求めていく。 			<ul style="list-style-type: none"> ○衣食住など生活について身につけたことを家庭でも実践し、知識・技能の定着を図る。 ○家庭で実践したことを共有する機械や場面を設ける。学んだことを自分自身の生活に活かそうとする意欲を伸ばす。 ○ICTを活用して理解を深め、実践的・体験的活動を充実を図る。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○技のポイントや取り組み方を示した学習カードを使い、児童一人一人に合っためあてをもたせて学習に取り組ませる。 ○ICTを活用して自分の動きを映像で確認し、動きを改善していく。 ○いろいろな運動や動きに繰り返し取り組み、各運動の基本となる力を身に付ける。 ○全校で統一し、持久力、敏捷性を育成する取組を実施する。(長縄・短縄・持久走など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合わせて、一人一人にめあてをもたせて学習に取り組ませる。 ○ICTを活用して、自分や友達の動きを見ながら動きを見直していく。 ○いろいろな運動や動きに取り組み、様々な動きの基本となる力を身に付ける。楽しみながら短縄や持久走に取り組ませることで体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合わせて、取り組む課題に合わせためあてを選ばせるようにする。 ○ICTを活用し、友達同士で自分の動きを映像で確認しながら動きのポイントを理解させる。 ○コーディネーション運動を準備運動に取り入れ、短縄や持久走などの校内の取り組みと連携しながら持久力・敏捷性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合わせて、めあてをもたせたり、練習の場を設定したりする。 ○ICTを活用して自分の動きの確認をさせる。取り組む技の基本となるポイントを理解させ、個に応じた技能の向上を図る。 ○持久力、敏捷性の向上のために、授業時間内での一人一人の活動量を確保する。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTやMEPSと密に連携を図りながら、学んだことを生かして、新しい課題を解決する学習や体験、自分の考えをICTを活用してスピーチの資料を作るなど活動の充実を図る。 ○基礎的な言語能力を培うことができるよう、ゲームを取り入れたり、発表を聞きあつたりして楽しく学習活動に取り組ませる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○例文などを参考に、自分のことや体験を簡単な語句や文法を用いて表現し、学んだことを生かす場を設ける。また、ICTを活用しながら活動の充実を図る。 ○自分のことや相手のこと、周りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、答えたりして基礎的な言語能力を培う

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○感覚を駆使する体験活動を充実させる。また、体験したことを記録したり、表現したりする言語活動を通して、根拠を基に論理的に表現できるように指導する。 ○単元に応じて、グループ編成等を行い、協働的な学習活動が実践できるようにする。 ○学んだことを生かして、次への課題等を設定できるよう指導する。 ○単元の特徴に応じて、ICTを積極的に取り入れ、課題解決に向け情報の収集、取捨選択する能力を育てると共に、児童相互の考えを共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人を育てたり、点字や手話に触れたりするなどの体験活動をさせる。また、体験したことやそれらを通して考えたことを、書いたり発表したりして、言語で表現できるよう指導する。 ○自ら課題を設定し、課題解決のための手段を考えることができるよう支援する。 ○課題解決に向けた調べ学習でクロムブックを活用し、情報処理能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会や自分の生活につながる課題を見出し、解決方法を検討させながら、個別に課題を絞り、課題解決学習を進めさせる。学習した内容や解決方法を日常の課題解決に生かせるように、学んだことを今後の自分や社会と関連付けて振り返りする。 ○調べたことや考えたことを、伝える相手や内容に応じて分かりやすく表現できるように、今までに学習した表現方法を工夫して活用させる。 	
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○主として、人との関わりに関する「親切、思いやり」と「礼儀」を重点とする。 ○ロールプレイやエンカウンター等の体験型学習を取り入れる。学習したことを振り返りカードに書くことにより、自己の生き方や道徳性を高めていく。 ○学んだことを普段の生活に自分ごととして振り返る。 ○自分の考え方や感じ方を明確にするとともに、グループ活動でお互いの考えを伝え合い、交流する場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人との関わりに関する「親切、思いやり」を重点的に取り扱い、思いやりのある児童を育てる。 ○ロールプレイやエンカウンター等の体験型学習を取り入れながら、実生活により活かせるように学習を深める。 ○自分の考えを友達に発表しながら共有することで、互いの意見を認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話的な活動を重視して指導する。対話は隣同士のペアや3人までとし、少数でお互いの考えを話し合わせることで、自分の考えを深めたり広げたりさせる。中心発問の時に話し合いをする。 ○ICTを駆使した教材提示を行う。パソコンからの映像を映し出し、抑揚のある声で範読する。その際、BGMも流してより教材の世界観に没れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行事なども絡めながら、「親切、思いやり」と「礼儀」を重点的に取り扱う。 ○書く時間を十分に確保したり、机間指導をしながら声掛けをしたりすることで、価値に近づき、よりよい自分の姿を考えられるようにする。 ○自分の考えをお互いに伝え、共有する場を設定することで、考えの多様性を広げさせる。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会の取り組みをより高めていけるよう、定期的に情報交換を行い、互いに助言し合う機会を設ける。 ○学級づくりや人間関係を高めるためのゲームやアクティビティを紹介し、学級で生かせるようにする。 ○児童会活動やクラブ活動は自発的自治的活動が広がるようにしていく。 ○行事では児童が活躍できるような取り組みを奨励していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級を楽しく豊かにするために、児童自ら必要な活動を考えさせるようにする。 ○児童の主体的な活動を促すため、係活動の時間を保証する。また、帰りの会等の時間を使い、優れた活動を称賛し、児童が意欲的に活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級を楽しく豊かにするために必要な係を出し合い、合意の上で決める。その際に学級における係の役割を自覚できるように担任が働きかけ、活動内容を決定し、仕事を分担しながら、協力して活動できるようにする。 ○学級での話し合いを通して、友達の見などを参考にしながら自己のよさや実現できそうな目標を具体的に考えたりできるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会では、出された意見をもとに話題を再確認したり、意見をまとめる方法を示したりして話し合いを児童が主体でまとめていけるようにする。 ○行事や児童会活動では、活動のめあてを明確にし、高学年としての役割を意識し、果たせるようにする。また、高学年としての意識が継続できるように助言する。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTやMEPSと密に連携を図りながら、学んだことを生かして、新しい課題を解決する学習や体験、自分の考えをICTを活用してスピーチの資料を作るなど活動の充実を図る。 ○基礎的な言語能力を培うことができるよう、ゲームを取り入れたり、発表を聞きあったりして楽しく学習活動に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イラストが描かれたカードや英語の音声に触れさせることを通して、児童が興味をもって学習に取り組めるようにする。 ○初めての外国語体験なので、自信をもって発言できるよう、チャンツやゲームなど体験的な活動を取り入れて、楽しみながら外国語の表現に親しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTやMEPSと密に連携を図りながら、チャンツやゲームなどの体験的な活動や、簡単な英語での対話を取り入れ、楽しみながら外国語の表現に親しめるようにする。 ○ICTを活用し、画像や音声に触れさせることを通して、児童が興味をもって学習に取り組めるようにする。 	